



第1回「諏訪湖まるまるゴミ調査」結果

諏訪湖創生ビジョン推進会議

- 1 調査目的 諏訪湖全域でごみの調査を行い、「諏訪湖のごみの現状」を明確化する。得られたデータの集積及び公表により、流域内にお住まい、お勤めの皆様に関心を高めるとともにごみの発生抑制に繋げていく。
- 2 実施日時 令和元年10月5日（土） 午前7時10分から概ね50分間
- 3 参加人数 195名（グループ数 32） 諏訪湖創生ビジョン推進会議構成員、アダプトプログラム登録団体、及び一般参加者（参加希望者）
- 4 実施エリア 5エリア（別紙のとおり）
- 5 調査種類 17種類（飲料ペットボトル、ペットボトルのふた(単体)、レジ袋、肥料袋、カップ型飲料容器、空き缶（アルミ）、空き缶（スチール）、ピン、ストロー、紙くず、ビニール破片、たばこの吸い殻、食品トレイ、発砲スチロール、弁当・惣菜などの容器、苗用ポット、プラスチック破片）
※下線はプラスチック製品由来。たばこの吸殻については、フィルター部分が大部分を占めることから、プラスチック製品由来に分類。ビニール破片はお菓子の包装等の軟らかいプラスチック破片。プラスチック破片は硬いプラスチックの破片。

6 調査結果

諏訪湖周のごみはプラスチック製品由来のものが全体の9割を占め、その内の約7割が小さなビニール片やプラスチック片でした。

(1)回収量 諏訪湖周全域で回収したごみの数と重量は以下のとおりです。

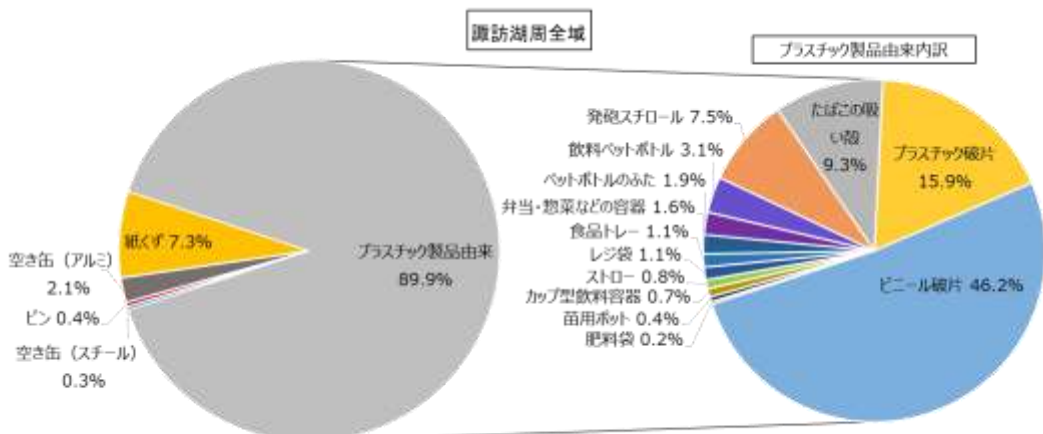
回収量（個）	全種類計：6,218個（内プラスチック製品由来：5,588個）
回収量（kg）	可燃ごみ：260kg、不燃ごみ：170kg

回収量（個）

種類	エリア	①	②	③	④	⑤	計（全域）
1 飲料ペットボトル		61	58	13	44	14	190
2 ペットボトルのふた		21	32	41	18	6	118
3 レジ袋		28	15	4	13	6	66
4 肥料袋		6	6	1	1	0	14
5 カップ型飲料容器		21	10	8	2	3	44
6 空き缶（アルミ）		53	27	15	25	11	131
7 空き缶（スチール）		5	5	3	4	3	20
8 ピン		7	2	6	8	0	23
9 ストロー		10	1	23	14	0	48
10 紙くず		132	34	208	33	49	456
11 ビニール破片		626	346	1,547	282	73	2,874
12 たばこの吸い殻		160	119	124	59	117	579
13 食品トレイ		19	12	6	31	1	69
14 発砲スチロール		109	59	152	131	18	469
15 弁当・惣菜などの容器		33	53	12	2	1	101
16 苗用ポット		17	3	2	3	1	26
17 プラスチック破片		149	97	531	181	32	990
合計		1,457	879	2,696	851	335	6,218
(内)プラスチック製品由来		1,260	811	2,464	781	272	5,588

※網掛けはプラスチック製品由来

(2)回収割合 諏訪湖周全域の個数の割合を示します。エリアごとの割合は別紙のとおりです。



7 ふりかえり

調査の後、「ごみ拾いで感じたこと」、「諏訪湖にごみがあると、自然やみなさんの周りにどんな影響があるか」、「ごみは、どこからやってきたか」という問いかけに関してグループごとにふりかえりを行っていただきました。

調査前日にはまとまった雨が降り、その際風下となりごみが集まったエリア、ヨシなどの抽水植物が多いエリア、また、コンクリート護岸が多いエリア等、エリアの状況によって感じられたことは様々でした。各エリアの主なご意見等は別紙をご覧ください。

「細かなビニール片、プラスチック片が多かった。」、「タバコのポイ捨てが多い。」、「景観が悪く、観光に影響がある。」、「鳥や魚等生態系に影響する。」などの意見が多く寄せられました。

また、今回の取組に対して、「とてもよい取組。多くの人に参加して、実感してほしい。」というご意見をいただくこともできました。

8 調査の様子



開会式 メイン会場(エリア③)



オリエンテーションの様子



水辺での調査実施中



グループごとのふりかえりの様子



(表面) 調査記録シート



(裏面) ふりかえりシート

9 まとめ

プラスチックは成形しやすく衛生的であることから、身の回りの様々なものに使われています。しかし、紫外線や熱に弱いため、屋外で長く使われたものは劣化により細かくなり、風に飛ばされたり、雨に流され、31本の流入河川を通じて諏訪湖に流れてきています。

家や学校、お店や事業所の周り、さらに街中、農地等にある、劣化が進んだプラスチック等を片付けることで、諏訪湖の細かなごみを減らすことができます。「ごみの無い諏訪湖」、また今世界的に問題となっている海ごみを無くすためには、まずは身近な場所の点検と片付け、そしてごみを拾うことから始めていくことが重要です。

10 今後

ふりかえりの中で、調査の実施にあたり、「良い取組であったが、知られていない。もっと広報した方が良い。」、「教育が大切。子どもと一緒にやるべき。」、「時期は10月中旬頃がよい。」、「分類方法、量の捉え方の検討が必要。」等のご意見をいただきました。いただいたご意見を参考に、さらに良い調査にしていきたいと考えております。

また、調査により得られたデータを集積し、公表していくことで、流域にお住まい、お勤めの皆さまに関心を寄せていただき、ごみの発生抑制につなげ、「ごみの無い諏訪湖」を目指していきます。

次回も是非大勢の皆さまのご参加をお願いします。